

【聽譯】 愛き夜道



たま

向こうの世界は いつも
賑やか
だけど どこか つまら
なそうだ
『一緒に笑える』 それだ
けのこと
とても大切なこと

たま

對面的世界 總是很熱鬧

但是 總覺得哪兒 有些
無趣
『能一起歡笑』 只有這一
點
是最重要的事

ランコ

教えてくれた君への感謝
は
尽きないけど 「ありがと
う」とは
照れくさくて 言えそう
にない
今夜も 黙って乾杯

ランコ

你告訴我種種的感激之情

無以言表 就連一句「謝
謝」
都羞澀得 難以啓齒

今晚也 默默乾杯

たま

ランコ

「憂世鬱世」云々 嘆き節

肴に呷る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは
君と居るからこそ

たま

ランコ

聊起「憂世鬱世」云云
悲嘆處
魚脩塞口 苦酒滑腸
卻說酒醺而未醉

但因有你在身旁

雨天決行

月夜に想い耽る
一方的な送り舟
何時 何時苦しみ酒が染
み

またあの日を慈しみ
癖に成る様な嫌な辛味
酒は進めど蟠り
盃に君を投影
する度波紋や花見月
瞳が嵩を増さす
揺れる心は過度な摩擦
笑い話
にも出来ずに 想いは盥
回し

雨天決行

月夜下思緒漸遠
有去無還的客船
從何時起 苦酒沁心

又憶起舊時靜好
討厭卻又成癮了的這辣酒
推杯換盞 心怒難熄
欲將你投影於酒盞
定睛看去卻波紋映月
眼瞳瞪大
搖擺的心過度摩擦
言笑之話
也想不出一句 顧左右而
言他

たま

ランコ

それで
も回る世界

雨天決行

そう変わらず
二人は存在してる

たま

ランコ

今でも
垢抜けない

雨天決行

想いが交差し
後悔し寝る

たま

ランコ

即便如
此世界還在旋轉

雨天決行

對的 不變的
是兩人也還繼續存在

たま

ランコ

現在也
是蓬頭垢面

雨天決行

心緒纏結 後
悔着入眠

たま

ランコ

たま

ランコ

向こうの世界は 平穩無事

だけど どこか 息苦し
そうだ

肩の力を 抜き 過ごせ
る

場所ではないのだろう

對面的世界 平穩無事

但是 總覺得哪兒 喘不
上氣來

是要放下重負忍辱苟活麼

現在也還沒到那種程度吧

たま

ランコ

「渡世は厭世」云々 恨み
節

肴に浸る 酒の苦味よ
けれども染み入り酔いぬ
のは

君が居るからこそ

たま

ランコ

聊起「渡世即厭世」云云
悲恨處

魚膾浸口 苦酒滑腸
卻說酒醺而未醉

但因身旁有你在

ランコ

僕は 名前も 知られて
ない

君の 周りには 人集り
だから 僕は
少し 離れた 場所で
君を見ていた

ランコ

你甚至都不知道我的名字

你的周圍人羣擁聚
所以我選擇
在稍微離遠一些的地方
一直注視着你

たま

たま

薄ざわめき 雲隠れの月
妙に 肌寒い 夜の小道
足元を照らす程度でいい

今夜は 灯りが欲しい

淡淡薄雲 遮掩明月
微微寒風刺骨 夜間小道
只要能照亮腳邊的程度就
夠

今晚想要些燈火

雨天決行

当面の予定は未定
そう透明で依然 差し出
す両手
二人が見ず知らず
何て想いだす意気地無し
未来予想すら
幾ら重ねても肥大妄想
喉を詰まる言いたい事
弱音を吐き崩れる膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌
全能まではいかず
「また、いつか」だけは誓
う
それで明日が始まりだす

実が無い話も根も葉も堀
り
二人の時間に華を咲かす
実感出来れば有終の美

雨天決行

眼下の予定は尚未確定
即是未知卻依然 伸出的
雙手
兩人尚是陌路
爲何會想起懦弱的一面
就連對未來的預想
諸事重重都是妄想
想說的事堵在喉口
說出口卻全是軟了膝蓋的
泄氣話

偶然的夜晚 釋然的酒宴
卻不能如願全能
「那麼，何時再聚」只有
這句約定
就憑這句明日奮鬥新的一
天

完全無實的話卻能刨根問
底
兩人的時光如曇花一現
如果能有實感的話也想有

終之美

貴方の立場も重々承知

你的立場我也一清二楚

たま

ランコ

向こうの世界が 幕を閉
じて

彼らは 大きく 息をつ
いた

僕らもいずれ 別れるだ
ろう

それぞれの行く先

たま

ランコ

對面的世界 落下了帷幕

他們開始鼾聲四起

我們某日也將相互道別吧

走向各自不同的方向

ランコ

たま

君との別れは ちょっと
悲しいけど

涙の別れは もっとつら
い

だから 僕は きっとそ
の時

笑いながらに言うよ

ランコ

たま

和你的訣別 雖有些悲傷

但流淚的告別 也更難受

所以我決定 到那時一定

會一邊笑着一邊說

たま

ランコ

雨天決行

二人 騒ぎ 二人 酔い耽
る

今夜が 最後でもないのに

たま

ランコ

雨天決行

兩人喧鬧 兩人沉醉

明明今晚還不是最後

僕の 視界が ぼやけてい 我的視線漸漸模糊
く

袖で こっそり拭う 提起衣袖偷偷拂拭

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
薄雲越えて	注ぐ月明かり		穿透薄雲	灑落的月光	
君と 寄り添って	この夜		和你 並肩走在	這條小道	
道					
今夜は 月が明るいけど			今夜月光還算明亮		
もう少し このまま			還想這樣繼續待一會兒		

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
「憂世鬱世」云々	嘆き節		聊起「憂世鬱世」	云云 悲	
			嘆處		
肴に呷る 酒の苦味よ			魚脩塞口 苦酒滑腸		
けれども染み入り酔いぬの			卻說酒醺而未醉		
は					
君と居たからこそ			但因那時你在身旁		

たま	ランコ	雨天決行	たま	ランコ	雨天決行
「渡世は厭世」云々	恨み節		聊起「渡世即厭世」	云云	
			悲恨處		
肴に浸る 酒の苦味よ			魚脩浸口 苦酒滑腸		
けれども染み入り酔いぬの			卻說酒醺而未醉		

は

君が居たからこそ

但因那時身旁有你

以上歌詞標註了三人配合時每人負責唱的部分，

たま 是魂音泉， **ランコ** 是豚乙女， 還有男聲

雨天決行。歌詞用的和語詞比較多，意向有些難以把握，上面的翻譯只是憑藉我個人的理解。

下面給出標上了假名適合跟唱的版本，順便在右邊配上一些難以翻譯的字詞的解釋。這些解釋不屬於字典上的解釋，只是這些字詞在這個上下文中我自己的理解：

たま

む 向 せかい こうの世界は にぎ いつも賑やか

だけど っ どこか 詰 まらなそうだ

いっしょ 『一緒に笑える』 わら それだけのこと
たいせつ とても大切なこと

たま

む 向 こう：對面，眼前的，
隱含不屬於自己這邊的。
にぎ 賑 やか：喧囂，吵雜，熱鬧。

っ 詰 まらない：無聊，無趣。這裏用「詰 まらなそう」是表樣態，看上去無趣的樣子。

わら 笑える：笑う的可能態，
わら 能一起笑。

ランコ

おし きみ かんしゃ
教えてくれた君への感謝

は

つきないけど「ありがとう」とは

て い
照れくさくて 言えそう
にない

こんや だま かんぱい
今夜も 黙って 乾杯

ランコ

つきない：無法完全表達
出來。

たま

ランコ

うきよ うつせ うんぬん なげ
「憂世 鬱世」云々 嘆き
ぶし
節

さかな あお さけ にがみ
肴に 呷る 酒の 苦味よ

し い よ
けれども 染み入り 酔い
ぬのは

きみ い
君と 居るからこそ

たま

ランコ

うきよ うきよ
憂世 即 浮世，佛教厭世觀
うきよ うつせ
的說法。「憂世 鬱世」即是
說「這個浮躁變換的世界
也是令人憂鬱的世界」。
ぶし
節：那時，那一刻，那一
點。

あお
呷る：大口吞下。一般這
個動詞的賓語是酒或者
毒，這裏是 肴

し い よ
染み入り：酒勁上頭。 酔
いぬ：不醉。

雨天決行

つきよ おも ふけ
月夜に想い耽る

いっぽうてき おく ぶね
一方的な送り舟

いつ いつ くる さけ し
何時何時苦しみ酒が染み

ひ いつく
またあの日を慈しみ

くせ な よう いや からみ
癖に成る様な嫌な辛味
さけ すす わだかま
酒は進めど蟠り

雨天決行

おも ふけ
想い耽る：沉浸在思緒中。

這句「有去無還的客船」可能指酒宴是開設在客船上，並且只有單向，於是後文他們需要走夜路。同時三途川上接亡者送去冥界的渡船也有被稱作「有去無還的客船」。

いつく
慈しみ：慈愛。這句「那一天」的格助詞用を，於是「那一天」是「慈愛」的賓語。直譯的話這句並非「想起那一天的慈愛」，而是「慈愛起了那一天」。

わだかま
蟠り：語源是千足蟲很多腳快步走過的樣子，引申義在這兒可以有兩種解釋，其一是酒杯像蟲腳一樣快快下肚，其二是心中煩悶和厭惡之情難以消解。

さかずき きみ とうえい
盃 に 君 を 投影

とうえい
投影：這裏下句加する是做動詞，將你投影進杯中。

たび はもん はなみづき
する 度 波紋 や 花見月

はなみづき
花見月：花中月，代指農曆三月，這裏可能是本意也可能是點出時間的引申意。

ひとみ かさ ま
瞳 が 嵩 を 増 さす
ゆ こころ かど まさつ
揺れる 心 は 過度 な 摩擦
わ ばなし
笑 い 話

かさ
嵩：面積，體積。

でき おも
にも 出来 ずに 想 いは
たらいまわ
盥回 し

たらいまわ
盥回し：迂迴，不切中主題的方式，推諉責任的態度

たま ランコ それで
まわ せかい
も 回 る 世界

雨天決行 そう かわら ず
ふたり そんざい
二人 は 存在 してる

たま ランコ いま
あかぬ
垢 抜 けない

あかぬ
垢抜ける：本意清掃灰塵，延伸到整潔的樣子，否定形式表示蓬頭垢面的樣子。

雨天決行 想 いが 交 差 し
ま ま

ま ま
想いが交差し：這裏歌詞

こうかい ね
後悔し寝る

おも こうさ
当て字標作「想いが交差
し」直譯是「思緒相互交
錯」，唱出來的是「ま
ま」兩個音。

たま ランコ
む せかい
向こうの世界は
へいおんぶじ
平穩無事

いきくる
だけど どこか 息苦し
そうだ

かた ちから ぬ す
肩の力を 抜き 過ご
せる

ばしょ
場所ではないのだろう

たま ランコ

直譯：放開肩膀上的力
氣，擠過去（狹窄的地
方）。

直譯：還沒到這樣的地方
吧。

たま ランコ
とせい えんせい うんぬん うら
「渡世は厭世」云々 恨
み節

たま ランコ
とせい
渡世：佛教用語，在世界
上生活，度過此生。「渡
世即厭世」大概是說，必
須厭倦了這個世界，才能
度過這個世界。換句話
說，學會生活在這個世
界，也就是學會厭倦了這
個世界。

さかな ひた さけ にがみ ひた
肴に 浸る 酒の 苦味も 浸る：浸沒。上一段唱的
是「肴を呷る」的感覺是
像服毒一樣大口吃，這句
動詞改成了 浸る^{ひた}，有種被
油脂浸沒，沉溺在其中的
感覺。

けれども 染^しみ入^いり 酔^よい
ぬのは

きみ い
君が 居るからこそ

上一段「君と居る」用的
格助詞と 表示「和你在一
起」。這句「君が居る」
用的格助詞が 就沒有了
「和你」的意思。直譯：
因為你在這裏。

ランコ

ぼく なまえ し
僕は 名前も 知られ
てない

きみ まわ ひと たか
君の 周りには 人集
り

だから ぼく
僕は

すこ はな ばしょ
少し 離れた 場所で

きみ み
君を見ていた

ランコ

し
知られてない：知道的被
動形式。我的名字沒有被
知道。

這裏過去式表示從過去就
開始，於是多了「一直」

的含義。一直注視着你。

たま

^{すすき}薄 ^{くも がく}ざわめき 雲 隠れの
^{つき}月

^{みよう}妙に ^{はだ ざむ}肌 寒い ^よ夜の
^{こみち}小道

^{あしもと}足元 ^てを ^{ていど}照らす 程度でい
い

^{こんや}今夜は ^{あか}灯 ^ほりが欲しい

たま

ざわめき：發出微小的響聲，這裏大概是風吹雲飄的聲音。

^{みよう}妙に：微妙地，稍微有一點。

雨天決行

^{どうめん}当面 ^{よてい}の ^{みてい}予定は 未定
^{とうめい}そう 透明 ^{いぜん}で 依然 ^さ差し
^だ出す ^{りょうて}両手

^{ふたり}二人 ^みが ^し見 ず 知 らず
^{なん}何 ^{おも}て ^{いくじ}想 いだす ^な意 気 地 無
し

^{みらい}未来 ^{よそう}予想 すら
^{いく}幾 ^{かさ}ら ^{ひだい}重 ^{もうそう}ねても 肥大 妄想
^{のど}喉 ^つを ^い詰 ^{こと}まる 言 たい 事

雨天決行

^{よてい}予定：今後的安排。

^み見 ^しず 知 らず：陌生人
和上句接在一起「爲什麼
會想起我們還是陌生人
呢，真沒出息」

よわね は くず
弱音を吐き崩れる
ひざこぞう
膝小僧

たまにの晩 釈然の
ばんしゃく
晩酌

ぜんのう
全能 まではいかず

「また、いつか」だけは誓
う

それで明日が始まりだす

み な はなし ね は
実が無い話も根も葉も
ほり
堀り

ふたり じ はな さ
二人の時間に華を咲か
す

じっかん でき ゆうしゅう び
実感出来れば有終の美

あなた たちば じゅうじゅうしょうち
貴方の立場も重々承知

くず ひざこぞう
崩れる膝小僧：膝蓋軟，
表示懦弱。

ね は ほり
根も葉も堀り：慣用語
ね ほ は ほ
根堀り葉堀り表示刨根
問底。對想說的事情完全
無法問出口，無關緊要的
事情卻能刨根問底。

ゆうしゅう び
有終の美：事情有始有終
的美。也想要好好開始好
好結束，但不能如願。

たま

む せかい まく
向こうの世界が幕を
と
閉じて

ランコ

たま

まく と
幕を閉じる：落下了帷幕

ランコ

かれ 彼らは おお 大きく いき 息を
つuita

ぼく 僕らもいづれ わか 別れるだ
ろう

それぞれの ゆ 行く さき 先

ランコ

たま

ランコ

たま

きみ 君との わか 別れは ちょっと
かな 悲しいけど

なみだ 涙の わか 別れは もっとつ
らい

だから ぼく 僕は きっとそ
とき の時

わら 笑いながらに い 言うよ

たま

ランコ

雨天決行

たま

ランコ

雨天決行

ふたり 二人 さわ 騒ぎ ふたり 二人 よ 酔
ふけ い耽る

こんや 今夜が さいご 最後までもないの
に

ぼく 僕の しかい 視界が ぼやけて
いく

そで 袖で ぬぐ こっそり 拭う

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行

うすくも こ そそ つき あ
薄雲 越えて 注ぐ 月明

かり

きみ よ そ
君と 寄り添って この

よみち
夜道

こんや つき あか
今夜は 月が明るいけど

すこ
もう少し このまま

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行

うきよ うつせ うんぬん なげ
「憂世 鬱世」云々 嘆き

ぶし
節

さかな あお さけ にがみ
肴に 呷る 酒の 苦味よ

し い よ
けれども 染み入り 酔い

ぬのは

きみ い
君と 居たからこそ

第一段「君と居る」這裏
變成了「君と居た」，過
去式。

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行

とせい えんせい うんぬん うら
「渡世は 厭世」云々 恨

ぶし
み 節

さかな ひた さけ にがみ
肴に 浸る 酒の 苦味よ
けれども しみ 入り 酔い
ぬのは

きみ い
君が 居たからこそ

第二段「君が 居る」這裏
變成了「君が 居た」，過
去式，以及沒有了第一段的
「和你」的意思。